全国税

発行所
東京都千代田区霞ヶ関
財務ビル内（〒100-0013）
全国税労働組合
発行人　木村　和由
電　話（03）3581－3678
ＦＡＸ（03）3507－0886
振替口座　00140-2-68514

茨城県五浦海岸の日の出

茨城県北茨城市にある、景勝地。「関東の松島」の異名を持つ。近代日本美術の発展等に多大な功績を残した、岡倉天心が転居した地。天心思索の場六角堂は有名だが、東日本大震災で流失。現在の建物（写真）は2012年に地元有志により再建された。

コロナ禍の確申期は「いのちと健康が守られる」事務運営を！

職場の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスに始まり、新型コロナウイルスで終わると言える一年でした。昨年の新年のあいさつで、オリンピックの開催などで記憶に残る年になると言及したのですが、そのオリンピックは延期となってしまい、人類にとっての脅威が出現した（これからも未開の地の開拓等によって、新種のウイルスが出現するとも言われている）負の記憶が残る年になってしまいました。

その新型コロナウイルスの感染拡大は、気温の低下と空気の乾燥と共に第3波の襲来となっており、感染拡大が未だ終息する展望も持てません。

また、政府のコロナ対策は、感染拡大防止策というよりも、経済再興に軸足を置いており、専門家の意見が軽く扱われている感があります。全国で医療崩壊が始まると、2度目の緊急事態宣言が出されるかと思います。

私たちの職場はそのコロナ禍で、2度目の確定申告期を迎えます。昨年は、確定申告期間の中途からの対応となり、しかも新型コロナウイルスの特性もほとんど分かっていなかったため、手探りの対応でした。

しかし、今年の確定申告期では、新型コロナウイルスの分析も進み、十分に対応策を練る時間があります。全国税は、11月の長官団交で、「その対策の第一は、職員（非常勤職員や派遣職員を含む）と納税者のいのちと健康を如何に守るかだ」と長官に求めてきました。

また、今年の確定申告期は、「平時ではない、例年と違う確定申告期だ！」との頭の切り替えが必要だと、特に幹部の方々に訴えたいと思います。要員の確保においても前年踏襲ではなく、署・局が真に一体となり事務系等間での聖域を失くし、最大限の要員配置の計画を建てておく必要があります。いつ何処の署でも感染者等が出てもおかしくない状況の中で、その都度慌てて応援者を募るのではなく、あらかじめの準備をしておくことが、この困難な繁忙期を乗り切るための最善策になります。

全国税は、確定申告期に限らず、「いのちと健康を守る」事務運営を第一とすることを繰り返し当局に求めてきましたし、当局も同じ認識を表明していますが、言行一致していない職場があれば、事務運営の改善を追及していきたいと思います。

職場の皆さん、コロナ禍で緊張が続き過大なストレスが掛かる長丁場の日々が続きます。健康管理を怠らず、苦しく辛くなった時には〝スン〟と一息入れましょう！あとは組織が何とかしてくれるはずです。幹部の皆さん、難しい事務運営が求められますが、よろしくお願いいたします

中央執行委員長
高橋　誠

“税務の職場”何でも110番

zenkokuzei@aol.com

全国税は、職場で起こった問題を解決するため「税務の職場、何でも一一〇番」を常時設置しています（電話とＦＡＸは上記の番号までどうぞ）。

◇全国税ホームページ◇
http://www.kokko-net.org/zenkokuzei

2021年　干支の雑学

「丑年」にモォーと牛を知ろう！

「丑」って何だ？

２０２１年は丑(うし)年です。「丑」という漢字は、手で物をつかむ様子を描いた象形文字からきています。

十二支は方角や日時などを表すのにも使われ、丑の時間帯は午前1～3時。怪談などで聞く「草木も眠る丑三つ時」は、午前1時から三つ時（一つは30分）が経った午前2時～2時30分を指します。

うなぎを食べる日として知られる「土用の丑」。土用は季節の変わり目の18日間を指し、土用の丑はその間の丑にあたる日のこと。２０２１年の夏の土用の丑は7月28日（水）です。

肉食禁止1200年？

日本でウシが飼われるようになったのは弥生時代の3世紀ごろ、あるいは古墳時代の6世紀ごろなどの説があります。いずれも渡来人が大陸から朝鮮半島を経由して連れてきて、田畑の耕作や運搬で使うとともに、肉や牛乳も利用されていたとみられます。

ところが、仏教の伝来とともに天武天皇が肉食禁止令（675年）を発し、以来明治時代まで1200年にわたって日本では公に牛肉を食べることが禁止されていました。

ただ、江戸時代にはみそに漬けた牛肉が将軍に献上されていた記録があり、庶民も「薬食い」と称して食べていたといわれています。

もぐもぐの理由は？

いつも口をもぐもぐしているのがウシの特徴の一つです。

これは一度食べたものを胃から口に戻して、もう一度かみ砕く反芻（はんすう）という行為。ウシは四つの胃を持ち、その一つには微生物がたくさんすんでいて消化を助けています。反芻と四つの胃、そしてたくさんの微生物の存在によって、普通は消化しきれない植物繊維を、ウシは栄養として取り込むことができるのです。

連合通信新年号から転載

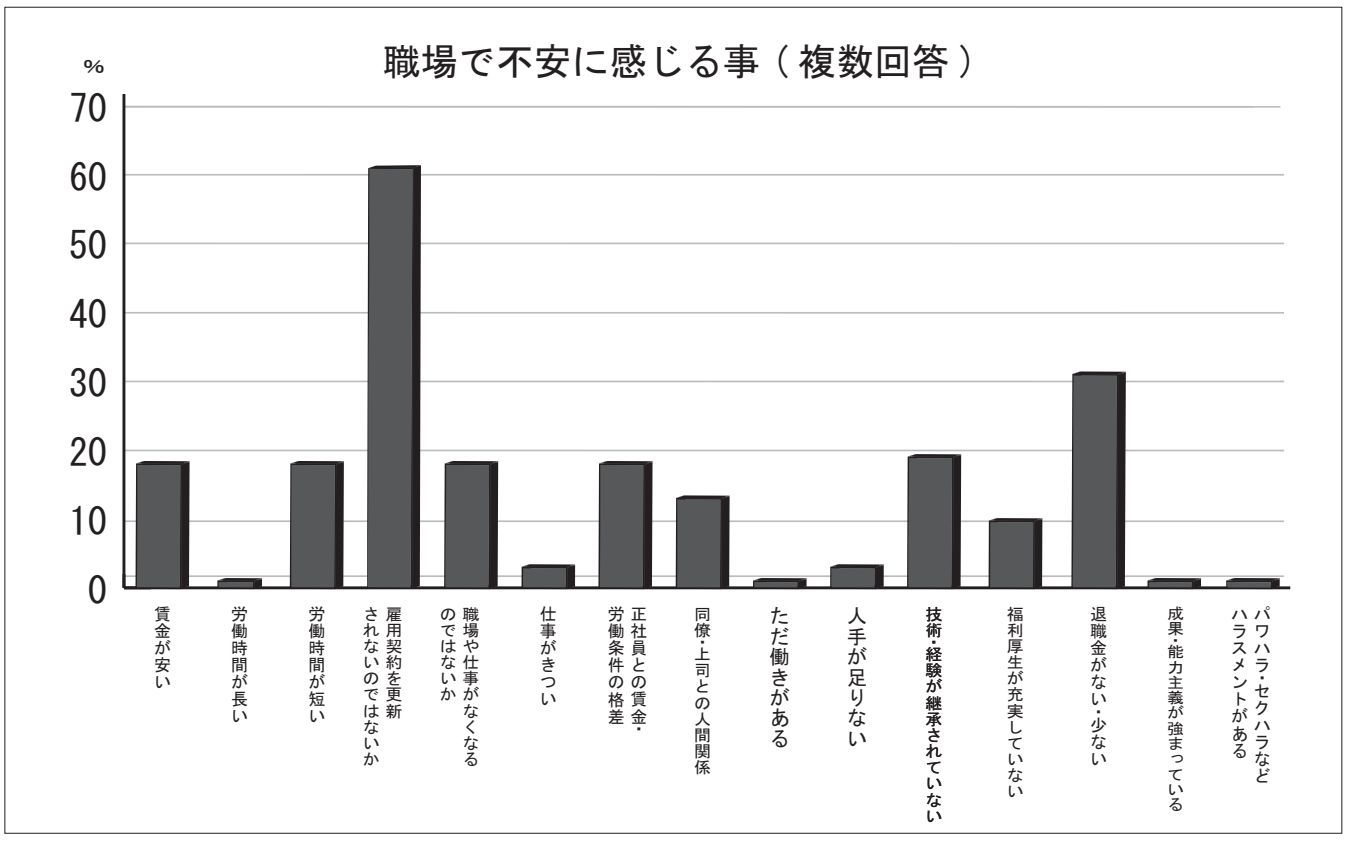
非常勤アンケート実施結果

私たちの要求をかなえて

雇い止めへの不安が62%とトップ

全国税は昨年秋、国公労連が全職場で実施した「非正規で働く仲間のアンケート」に取組みました。

その結果を記載するとともに、引き続き非常勤職員の労働条件改善の運動を強めます。



私の一言

①他の職場は非正規を含めてマスクが1日1枚支給されています。あれば助かります。

②職場でインフルエンザ予防注射を打たせてほしい。

③緊急事態宣言時休むよう言われたが無給だった。民間では6割補償があったのになぜ補償なし?

④職員が在宅勤務を認められる中、私たち非常勤職員は、欠勤を強要されました。掛け合った結果、非常勤も在宅勤務を認めていただくことができましたが、このような対応をされたことに心の底から落胆いたし、残念でなりませんでした。

⑤勤務日数が希望通りに通らず削られて、今まで通りの仕事量を遂行できません。

⑥部門によっては非常勤の希望勤務日数が認められているところがあるのに、不公平。

⑦有期雇用がいかに非人間的な制度であるか考えてほしい。低賃金、有期雇用でスト権がないという、こんな都合の良い人件費はまことにもって「虫が良すぎる」。先進国の名に恥じることを認めるべきだ。

新春インタビュー

立憲主義で一致し、政権交代の年に

元文部科学事務次官　前川　喜平さん

2020年9月、7年8カ月続いた安倍政権が終わりましたが、長かっただけで良いことは一つもない政権でした。

小泉政権以来、新自由主義的な政策が続き、富める者はますます富み、貧しい者はますます貧しくなりました。現在、失業や倒産が増えていますが、これは新型コロナウイルスだけのせいではなく、アベノミクスの結果です。人間の命や生活をないがしろにしてきたアベ政治がもたらしたものです。

安倍政権のもとで防衛予算は膨れ上がりました。各省予算のうちトップは厚生労働省ですが、2位グループは国土交通省・文部科学省・防衛省です。このうち文科省の予算は年々減らされ、逆に防衛省予算は増額が続いています。2020年度予算で防衛省の予算は文科省を逆転しました。

憲法が破壊された

安倍政権は立憲主義を破壊し続けた政権でしたが、その最大のものが安保法制＝戦争法でした。これはそもそも違憲立法です。集団的自衛権が憲法9条のもとで認められるなどという閣議決定は、憲法破壊の最たるものです。

安倍政権は同時に、官僚を官邸の下僕・私兵にしてしまいました。最高裁の裁判官も、いまや全て安倍内閣の下での任命です。会計検査院や人事院など、政府から一定の独立性を保っていた機関にも支配は及び、会計検査院は森友学園問題を追及しきれず、黒川検事長の定年延長問題で人事院は官邸に屈する国会答弁をせざるを得なかった。

検察庁の定年延長問題でストップをかけたのは、土俵の徳俵でギリギリ踏みとどまったというところでしょうか。SNSの力もあって政府のねらいを押しとどめた。これは新しい形の民主主義の表れだと希望を感じました。

安倍政権は、憲法を破壊し、三権分立を破壊し、独裁政治に道を開くところまできました。続く菅政権にしても、看板が変わっただけで本質は同じです。むしろ、法務・警察・検察への支配をより強め、恐怖政治が始まるかもしれない。

民主主義を取り戻そう

これに対抗するには、野党が一つにまとまらなければなりません。新型コロナによる中小企業の倒産・廃業、労働者の失業などは今年、より顕在化するでしょう。新型コロナによる経済苦で死を考えるまで追い詰められている国民が大勢いる。政治は、そうした人たちに生きる希望を与えなくてはなりません。

私が専門とする教育の世界でも、同調圧力・権威主義がはびこり、ファシズムが現実のものとなっています。このままでは民主主義の担い手を育てることができなくなってしまう。

新自由主義と決別し、ファシズムを食い止めるためにも、2021年は何としても政権交代の年にしてほしい。自民党の中にも護憲派はいるはずです。立憲主義か否かを対立軸にして、野党は立憲主義で一致して、政権を獲得してほしいと心から願っています。

Profile

まえかわ　きへい　1955年奈良県生まれ。東京大学法学部卒業後、1979年に文部省（現文部科学省）入省。初等中等教育局長、文部科学審議官などを歴任し、2016年6月から17年1月まで文部科学事務次官。加計学園問題をめぐる内部文書の存在を認め話題に。著書に「面従腹背」（毎日新聞出版）、「同調圧力」（角川新書、共著）、「官僚の本分」（かもがわ出版、共著）など多数。現在は自主夜間中学のスタッフとしても活動中。

「連合通信・2021年新年原稿特集号」より